

2018年9月6日

民間事業者『初』 水素で発電する燃料電池バス、「SORA」を導入！ 2019年春からお台場地区で運行開始予定

京急グループの京浜急行バス株式会社（本社：東京都港区，社長：平位 武，以下，京浜急行バス）は，トヨタ自動車株式会社（本社：愛知県）の燃料電池バス「SORA」を民間事業者として，初めて導入し，2019年春からお台場地区で運行を開始予定です。

京浜急行バスではこれまでもハイブリッドバスや平成28年排出ガス規制対応車といった環境負荷の低いバスの導入を行ってまいりました。この度導入する「SORA」は，水素と空気中の酸素の化学反応で発電した電気を動力とするため，走行時に二酸化炭素や環境負荷物質を排出しない優れた環境性能を有しています。また，環境性能面以外でもユニバーサルデザインの導入や，停車時に運転手に周囲の歩行者・自転車といった動体がいる場合に音と画像で知らせる「視界支援カメラシステム」，車内での転倒事故の要因になる急加速を抑制する加速制御機能等，環境と人に優しいバスです。

京浜急行バスでは，初導入となる燃料電池バスについて，実際の路線バスでの運用を通じて，性能や利便性を検証し，2台目以降の導入を検討してまいります。

詳細については別紙のとおりです。



カラーリングイメージ（案）

【別 紙】

燃料電池バス「SORA」の導入について

1. 導入するバス 燃料電池バス「SORA」
2. 導入台数 1台
3. 導入時期 2019年春頃を予定
4. 導入する営業所 京浜急行バス 大森営業所
5. 運行路線 船の科学館線（予定）
船の科学館線はJR大森駅から東京港トンネルを経由し、お台場地区（フジテレビ前、台場駅前、東京レポート駅、船の科学館前等）を運行する路線です。

【参 考】

燃料電池バス「SORA」について

燃料電池バス「SORA」は、トヨタ自動車㈱が、開発した量販型燃料電池バスです。燃料は従来、バス車両で多く用いられてきた軽油ではなく、水素を使用し発電した電気でバスを駆動させます。発電する過程では二酸化炭素や環境負荷物質が発生しないため、非常に環境性能に優れています。



燃料電池バス「SORA」（写真提供：トヨタ自動車株式会社）